

第 2 回 富士見市総合計画等審議会

議事録

| | | | | | | | |
|------------------------|--|--|-----------------|-----------------|------|------|--|
| 日 時 | 令和 7 年 1 月 2 1 日 (火) | | 開会 午後 7 時 0 0 分 | 閉会 午後 9 時 1 0 分 | | | |
| 場 所 | 富士見市役所 2 階 市長公室 | | | | | | |
| 出 席 者 | 委 員 | 鏡会長 | 志摩副会長 | 赤羽委員 | 朝賀委員 | 市川委員 | |
| | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | 小野寺委員 | 小池委員 | 木幡委員 | 関口委員 | 関谷委員 | |
| | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | 出谷委員 | 堀端委員 | 山本委員 | 吉原委員 | | |
| | | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | 事務局 | 政策財務部 水口部長 政策企画課 荒田課長、川村副課長、新井主査、須堯主任 | | | | | |
| 公 開 ・ 非 公 開 | 公開 (傍聴者 0 名) | | | | | | |
| 議 題 | <p>1 開 会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 政策財務部長あいさつ</p> <p>4 議 事 (1) 第 2 期基本計画等の策定に向けた第 1 期基本計画等の検証について</p> <p>5 その他</p> <p>6 閉 会</p> | | | | | | |

委員：K S Fは、ファクター（要素）であるが、数値として目標を設定した理由を伺いたい。

事務局：第1期基本計画を策定する際に、行政の活動量を測る指標としてK S Fを定め、行政活動の結果、どのような効果があったのかを測る指標としてK P Iを定めることと整理した。そのため、K S Fを定量的に評価するための目標値を設定した。

会長：K P IやK S Fといった用語の意味や具体的な使い方については、本来の意味合いと異なるのではないかというご指摘だと捉えているが、富士見市においては、事務局からの説明のとおり用語の使い方を整理しているとご理解いただきたい。

委員：資料2の4ページ、成果指標の進捗状況について、年度によっては、目標値を超えたり、下回ったりしている指標があるが、このような場合は、達成、未達成の評価はどのように行ったのか。

事務局：最新値を基に評価している。最新値が目標値を超えているものは、達成、目標値を下回っているものについては、最新値と現状値を比較して上がっている場合は向上、下がっている場合は低下等に区分した。

委員：外的要因の項目は大半がコロナ禍の影響を受けたと記載されているが、コロナが終息し、市民活動が活発になったことにより、数値に好影響を受けたものや、悪影響を受けたものがあると思うため、最新値だけで判断するのではなく、もう少し丁寧に見た方が良いのではないか。

事務局：今回の検証においては、基準日を設けて判断しなければならないため、最新値を基に評価を行ったところであるが、例えば、防犯の分野で指標として設定している市内犯罪率については、コロナ禍には行動が制限されていたことにより、犯罪率が低下したが、制限が緩和されたら、増加しているという状況もある。

委員ご指摘の通り、計画期間中の数値の推移を見る必要があるのではないかということについては、ご意見としていただき、計画策定にあたり、活かしていきたい。

事務局：（第2期基本計画等の策定に向けた第1期基本計画の検証について「資料3 第1期基本計画等検証シート」を用いて説明）

※以下の3つの基本政策について説明

分野10「生涯学習」、基本政策15「自由な学びにより生きがいができる」

分野12「地域コミュニティ」、基本政策17「市民が主役のまちづくり」

分野24「住環境」、基本政策32「良好な住環境のもとで生活ができる」

会 長：事務局から説明があったとおり、本来であれば、第1期計画が第2期計画に継承していくため、全ての基本政策について審議すべきであるが、時間が限られているため、今回は抽出した3本を審議したい。

分野10「生涯学習」、基本政策15「自由な学びにより生きがいができる」

委 員：検証では、K P I の設定が適切と評価しているが、単純に数値だけを見たときに、数値目標の数値が大幅に低下しているにも関わらず、K P I は4項目中3項目が上昇している。このような状況において、K P I の設定が適切と評価した理由を伺いたい。

事務局：今回の検証は、所管課の自己評価として整理している。数値目標とK P I の連動性については、全体的に見直す必要がある課題だと認識しているため、指標の検討を行っていく。

委 員：満足度評価をK P I に採用しているが、満足度は事前期待に対する結果評価であり、満足度を上げたければ事前期待を下げれば自然と数値は向上する。そのため、満足度をK P I とすることは適切ではないと考える。

事務局：K P I は行政活動の結果、市民にどのような変化があったのかという指標であるが、これを端的に表す指標設定が難しいのが実情である。そのため、同内容のアンケート調査を定期的を実施し、市民満足度がどう変化したのかといったものをK P I として活用している。

委 員：満足度調査以外で、例えば、リピート率など、定量的に把握できる指標があれば積極的に取り入れていくべきと考える。

事務局：適切な指標が見つければ変えていくべきと考える。生涯学習の分野に限らず、すべての分野に当てはまるため、一つ一つ見直ししていく。

会 長：学習活動支援に対する満足度という言葉を探っていくと、学習活動支援や満足という言葉の幅があるため、もう少し丁寧な説明が必要ではないかと感じる。

委 員：生きがい一つとっても、言葉の抽象度が高いと感じる。アンケート調査についても、具体的な内容とするなど、聞き方を変えることにより、結果は大きく変わってくるのではないかと考える。

事務局：数値目標やK P I については、5年後の目指す姿の達成度合い等を示す指標であることから、抽象的な表現となっている。質問を具体的に絞れば答えやすくなる一方で、絞りすぎてしまうと5年後の目指す姿

の達成度合いを適切に測れなくなってしまうこともあるため、いただいた意見を踏まえ、検討していきたい。

会 長：第1期計画の策定の際に、政策の達成度合いを可視化するための手法として、様々な議論を経て、K P Iを採用したが、現場の方も試行錯誤しながら設定したため、十分ではなかったという反省もあるかもしれないし、パチンとはまった政策もあるかもしれないと捉えている。これらを踏まえ、第2期計画の策定の中で指標設定を見直していくものとする。

分野 12「地域コミュニティ」、基本政策 17「市民が主役のまちづくり」

委 員：町会では、人材不足が一番課題となっている。団塊の世代は、65歳くらいで仕事をリタイヤして、町会を手伝う時間があったが、近年は、定年延長や、シルバー人材センターで75歳くらいまで働いている人が多くなっている。50から60歳くらいの若い世代もほとんど担い手となっていないため、人材不足を感じている。

委 員：民生委員も担い手が不足しており、打診を受けたことがあるが、平日の昼間に会議があるということで、断った経緯がある民生委員や町会についても、現役世代が関われるような、仕組みにさせていただいた方がよいと考える。

委 員：町会の人材不足が進んでいる中で、まちづくり協議会を将来的には全小学校区に作り、まちづくり協議会が町会の仕事を肩代わりできるような形にしていこうという検討もしている。そうすれば、町会単位で運営する場合と比較して必要な役員数を減らせるといったメリットもある。一方で、町会がないとデメリットも多いため、工夫しながら検討していきたい。

会 長：様々な課題に対し、試行錯誤しながら進んでいくと思う。また、地域のつながりは、大変重要なことだと思う。しかしながら、現状の体制を維持していくのも難しいという現実もあるため、新しい形も検討していく必要があるのではないかと感じたところである。

会 長：時間が来たため、ここで議論を閉じさせていただきたい。最後の三つ目については入れなかったが、今日いただいた資料も読み込んでいただき、何かご質問があれば事務局宛に紙等でご質問いただいて、後日、委員で共有できるような形で進めさせていただきたい。

委員：審議会は慣れていないので、今回の議論の論点や資料をどう読めばいいかなど、資料等を送付する際に、一緒に示してもらえると助かる。

事務局：いただいたご意見をまとめたものについても、資料と一緒に送付する。

委員：次回は骨子案が出てくるってことは、もう検証資料は必要ないのか。

事務局：骨子案の際にも第1期検証資料を活用していただければと考えている。

5 その他

次回会議の日程調整の結果、令和7年3月24日（月）午後7時からに決定

6 閉 会 志摩副会長